

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

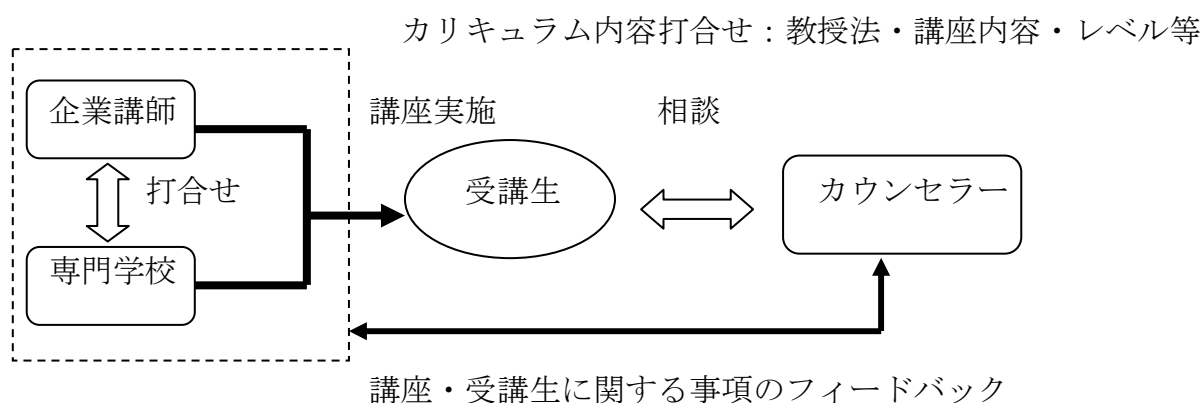
コ ー ス 名	若者対象コース		
事 業 名	若年層ニート・フリーターを対象にしたモノづくり意欲向上教育		
法 人 名	学校法人 電波学園		
学 校 名	名古屋工学院専門学校		
代 表 者	理事長 小川明治	担当者 連絡先	村岡好久 電話 052(681)1311
1. 事業の目的			
<p>近年、中学、高校、大学卒業後、短期間の内に離職する現象が問題視されている。一方、中学高校時代に登校拒否などを経験し、高校卒業資格が得られずまた、一度職に就いてはみたが定着できず、その後就業も就学もしないニート・フリーターと呼ばれる若者が増加している。</p> <p>こうした若者達の多くは、本人は何がしかの社会参加の意思は持っているものの、彼ら自身の生活速度で社会参加することが困難であったり、何らかの心理的負担から次の就業・就学のステップを踏み出せずにいる。しかし、こうした彼らの就業や就学を支援する体制は十分とは言えず、社会復帰が遠のいているのが現状である。</p> <p>そこで、これらの若者を対象に、①東海地方のモノづくり概論(座学講義 6h) ②モノづくり体験学習 i プログラミング基礎と自走ロボットの製作(座学実習 24h) ii CAD/CAM加工機を利用した体験学習(座学実習24h) iii 太陽電池クラフトとエネルギー利用を学ぶ(座学実習24h) ③モノづくり職場見学 i イワキ工業(岐阜県各務原市 航空機部品製造) ii (株)エイエムディ自動機(岐阜県各務原市 産業用自動機械製造) ④キャリア教育(座学講義 24h) ⑤キャリアカウンセリングを実施(延べ 55 人、176 件)し、働くことや、学習の意味を見出し、次世代モノづくりの担い手として、また、自らの進路を見極めるプログラムを推進した。</p> <p>ニートとフリーターを同一には論じられないが、いずれにしても今回の事業では受講者の個々にあった支援をベースとし、このプログラムを活用することにより受講生自らが将来の方向性を見出し就学や就業の道を歩んでいくことを仕上がり像とした。</p>			
2. 事業の実施に関する項目			
①カリキュラムの概要(目的・科目数・内容・期間)			
<p>I カリキュラムの目的</p> <p>以下に詳述するモノづくり体験講座あるいはキャリア教育を通じて、ニート・フリーターと呼ばれる無業者の若者あるいは、就業・就学に自信を失った若者が、働くことや、学習の意味を見出し、次世代モノづくの担い手として、また、自らの進路を見極めることができるカリキュラムをめざした。そして、このプログラムを活用することにより、受講生自らが将来の方向性を見出し、自信を持って就学や就業の道を歩んでいくことを目的とした。</p>			

II カリキュラムの特徴

カリキュラムの特徴は以下の3点である

- ①「モノづくり」を講座の中心に据え、モノづくり産業の重要性を知るとともに、モノづくりの楽しさを体験し、モノづくり教育が本来持つ「気づき」を引き出す。
- ②講座期間中、常時、カウンセラーを配置して就業・就学の相談ができる体制をとる。
- ③企業の「技術力」と専門学校の「教育力」を活用し、「訓練と教育」のコラボレーションをはかり就業・就学にとって効果的な講座体制とする。

下記にカリキュラムを実施する講座支援体制の概要を示す。



講座支援体制の概要

III カリキュラム内容

- ①開設講座数 8講座（修了式「今後の就職活動に向けて」を含む）
（モノづくり概論1講座 モノづくり体験3講座 キャリア教育1講座 工場見学2講座 就職活動1講座）
- ②総授業時間数 20日 117時間
- ③開設期間 平成21年9月19日（土）～平成22年1月24日（日）
- ④講座内訳
 - i モノづくり概論
 - 1) 東海地方のモノづくり概論 9/19(土)6時間
講師 (株)アシストエンジニア 松岡敏弘
助手 (株)アシストエンジニア 増田結希
日本有数のモノづくりの集積地域である東海地方のモノづくりの特徴を解説。自動車、航空機電機の各産業の実態と、エネファーム、太陽電池など新産業を含めた今後のモノづくりの展望を解説。加えて、設計から製造までをわかり易く紹介した。
 - ii モノづくり体験
 - 1) プログラミング基礎と自走ロボットの製作 9/26(土)27(日)、10/11(日)12(月・祝)24時間
講師1 (株)アシストエンジニア 増田結希
講師2 (株)アシストエンジニア 西川修司
回路の説明は概略にとどめ、センサ、電子部品のハンダ付けから行い、簡易なライントレーサを完成することを目標とした。トレーサを動かすためのプログラミングでは、論理思考の説明から行い、プログラミングの手順、概要について実習を交えて行った。プログラムによっていかに機械に知力をつけるかという理解に重点をおいた。

2) CAD/CAM加工機を利用した体験学習 11/1(日) 3(火・祝) 7(土) 8(日)24時間

講師1 キャリオ技研(株) 岡本耕侍

講師2 キャリア技研(株) 山際有香

3DCADソフトを利用し、簡単な図形をCADで描くことから始め、主要なコマンド操作の実習を行った。自らがCADで描いたデータをもとに、加工機で形にするというCAD/CAM技術とCADでモノづくりを設計し製作するという一連のプロセスの習得を目的とした。

3) 太陽電池クラフトとエネルギー利用 11/21(土) 22(日) 27(土) 28(日)24時間

講師1 (株)ディプライ 飯田昌吉

講師2 (株)ディプライ 堀和正(12時間) 国定奈美(12時間)

二酸化チタンパウダーを使った太陽電池を製作した。製作工程は人手による作業が多いため太陽電池を身近に感じることができる。太陽電池の理論は概要に留め、今後の太陽電池の新しい利用法や環境問題と絡めて解説し、身近に感じ取れるようエネファームなどの実験も行った。

iii モノづくり職場見学

1) イワキ工業(株)と各務原市航空宇宙博物館見学 12/3(木) 6時間

引率講師 NPO法人キャリア開発支援センター 川島伸行

引率講師助手 (株)ディプライ 国定奈美

(株)ブイ・アールテクノセンターの河合コーディネータの案内、解説によって、イワキ工業(株)にて航空機工場見学と航空機産業について講話を伺った。意外とこじんまりとした工場で巨大な航空機の部品が製造される様に驚きがあったようだ。(株)ブイ・アールテクノセンターで休憩、午後は、各務原市航空宇宙博物館を見学。戦後日本の航空機の発展の歴史を学んだ。

2) (株)エイエムディ自動機とトヨタ産業技術記念館見学 12/9(水) 6時間

引率講師 NPO法人キャリア開発支援センター 川島伸行

引率講師助手 (株)ディプライ 国定奈美

(株)エイエムディ自動機(株)産業用自動機械工場を見学。世界と競争する日本のモノづくりの現状と生き残り策について講話を伺った。自動化工場では、数人の作業者が工場全体を管理しており、非常に幅広い職務を1人の作業者が担当していることに、受講生も驚いていた。(株)ブイ・アールテクノセンターで休憩後、午後は、トヨタ産業技術博物館を見学、トヨタグループを中心に、東海地方のモノづくりの発展の歴史を学んだ。

iv キャリア教育

1) キャリア教育の実施 9/20(日) 21(月・祝) 10/17(土) 18(日) 24時間

講師 (株)アイテック 市川文昭

現在の雇用環境の実態を踏まえ、自己分析、履歴書、職務経歴書について演習形式で実施した。また、グループ討議やアサーショントレーニングを行い、他者理解、自己理解の重要性を学んだ。また、再就職に有益なジョブ・カードの意味と記述方法について解説を行った。

v 修了式 懇談会

1) 今後の就職活動に向けて

講師 名古屋工学院専門学校 村岡好久 1/24(日) 3時間

厳しい雇用情勢の中での就職活動とストレス耐性について、職場や学校現場における人間関係の在り方、重要性について講義を行った。

② キャリアカウンセリングの実施

受講生へのカウンセリング体制として講座期間中、カウンセラーを配置した。

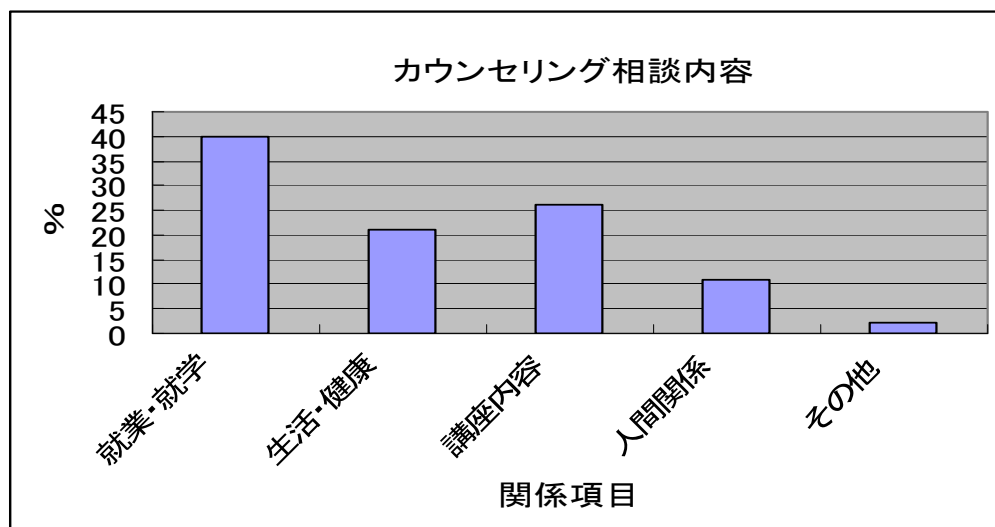
9/19(土)は講座初日であり、アクシデントに備えるために3名配置。

その他の講義日は各日1名のカウンセラーで対応した。

臨床心理士	電波学園職員	伊藤知里
産業カウンセラー	名古屋工学院専門学校	村岡好久
キャリアカウンセラー	(株)アイテック	市川文昭
	NPO法人キャリア開発支援センター	梁川 正
	NPO法人キャリア開発支援センター	川島伸行
	NPO法人キャリア開発支援センター	山内真奈美
	(株)ディプライ	坪井展子
	(株)ディプライ	重留紘治
	(株)ディプライ	松竹冬樹
	キャリアオ技研(株)	富田 茂

本プログラムの特徴のひとつは、臨床心理士、キャリアカウンセラーなどを講座期間中常駐させ、受講生を側面からフォローしたことである。カウンセリングは18日間(工場見学の日程は常駐せず)、相談人数延べ55名、176件(1日平均3.1人 電話相談を含む)という状況であった。

カウンセリングの内容については詳しく述べることはできないが、大きく分類した相談内容は以下の通りである。



受講生の募集については以下の方策を実施した

種 別	内 容
新聞広告	中日新聞(H21.9.5)毎日新聞(H21.9.9)各 1 回
新聞広告	不登校新聞・Fonte(H.21.9.1) 1 回
ポスター・チラシ 配布	愛知県・岐阜県ヤングジョブ、NPO 法人若者サポートセンター、ハローワーク、社会福祉協議会、町村役場、子供劇場、NPO 支援組織等 合計ポスター40 部、チラシ約 800 部

それぞれの募集方法と効果については下記の通りである。

●新聞広告

新聞広告による公的機関から電話での問い合わせが 2 件あった。新聞広告は、支援団体がこれを元に、本人(講座希望者)に説明し行動につなげるという点で効果があった。

本人から直接の問い合わせはなかったが、このことはニート・フリーター支援の難しさを示していると言える。

●NPO 法人若者自立支援塾団体等

若者の自立支援を行っている団体は、若年無業者と直接関わっており、彼らのことをよく理解している数少ない団体であり、本事業においては何人かの推薦を頂いた。

●ハローワーク、町村役場、社会福祉協議会等公的機関・団体

名古屋市内、岐阜市内の一部のハローワーク、町村役場、社会福祉協議会には、直接伺って趣旨説明を行い、チラシ、ポスターの設置や掲示にご協力を頂いた。ここからの情報をもとに応募してきたものも数名あった。

●その他

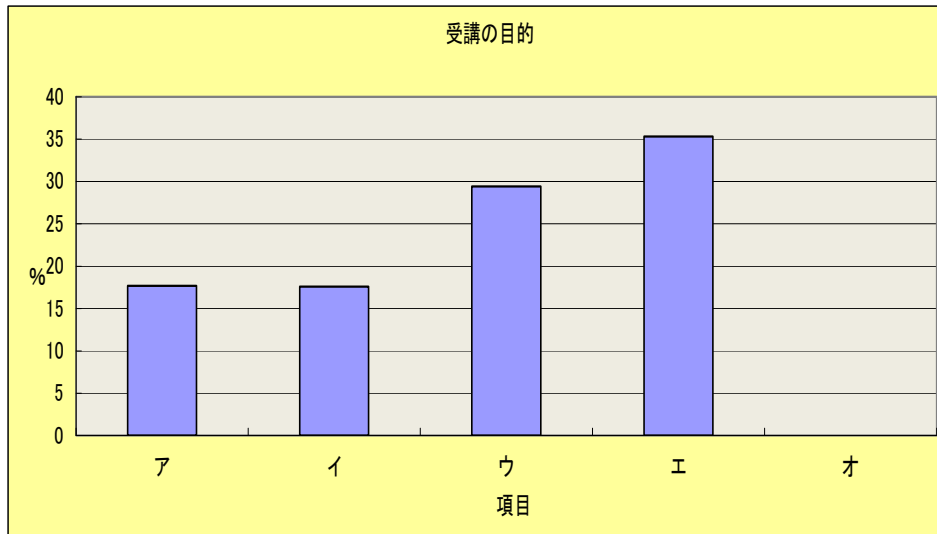
今回、募集定員 20 名に対し、14 名の申し込みがあった。上記の広報とともに口コミや個人のネットワークなど人を介すことにより、活字だけでは見えにくい講座内容や趣旨が受講希望者に信頼感と安心感を与え、行動変容につながったと解釈している。

③受講者の状況

受講生の決定に際しては、受講動機や受講継続性の可否について面接を実施した。その結果を踏まえた選考会議の結果、受講生 14 名全員を合格とした。
受講生の属性は以下の通りである。

年齢層	20歳未満 5人、20歳代 2人、30歳代 6人、40歳代 1人
性別	男 12人、女 2人
学歴 (%)	高卒 14.3、大学在中 35.7、短大・専門・高専卒 42.9、大卒 7.1
生活費の負担 (%)	親：57.1 貯蓄：28.6 その他：14.3 (上記はいずれもアルバイトをしている)

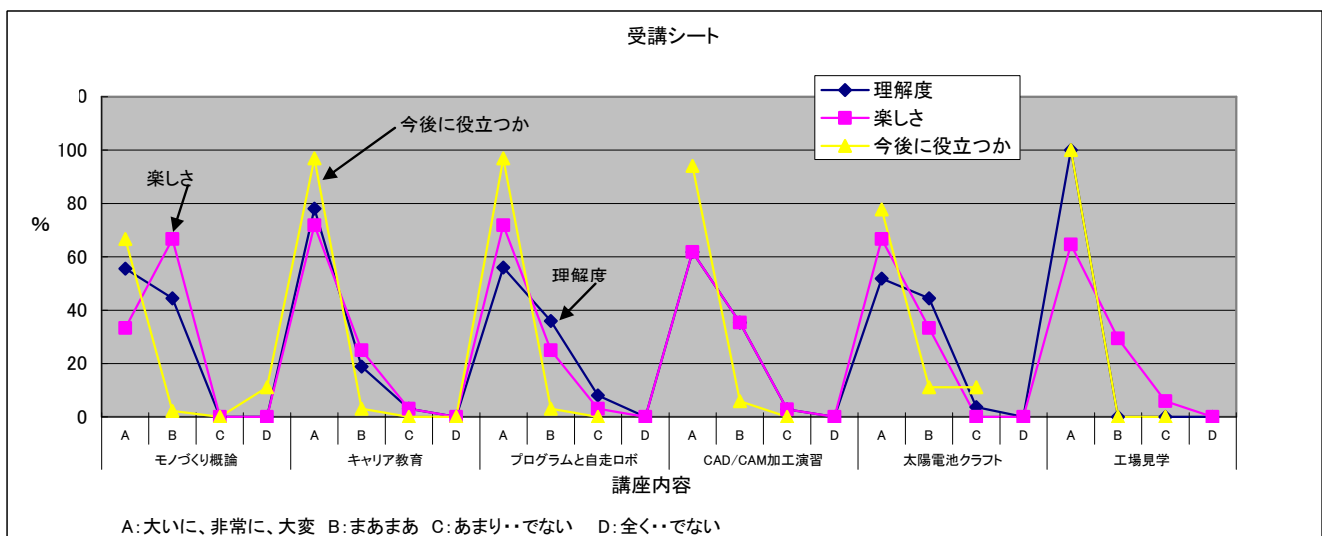
受講目的については以下の通りである(複数回答)



ア 仕事・職業に悩んでいた イ 将来の方向性を定めたかった
 ウ スキルアップを図りたかった エ モノづくりに興味があった オ その他

④受講者の意識調査等

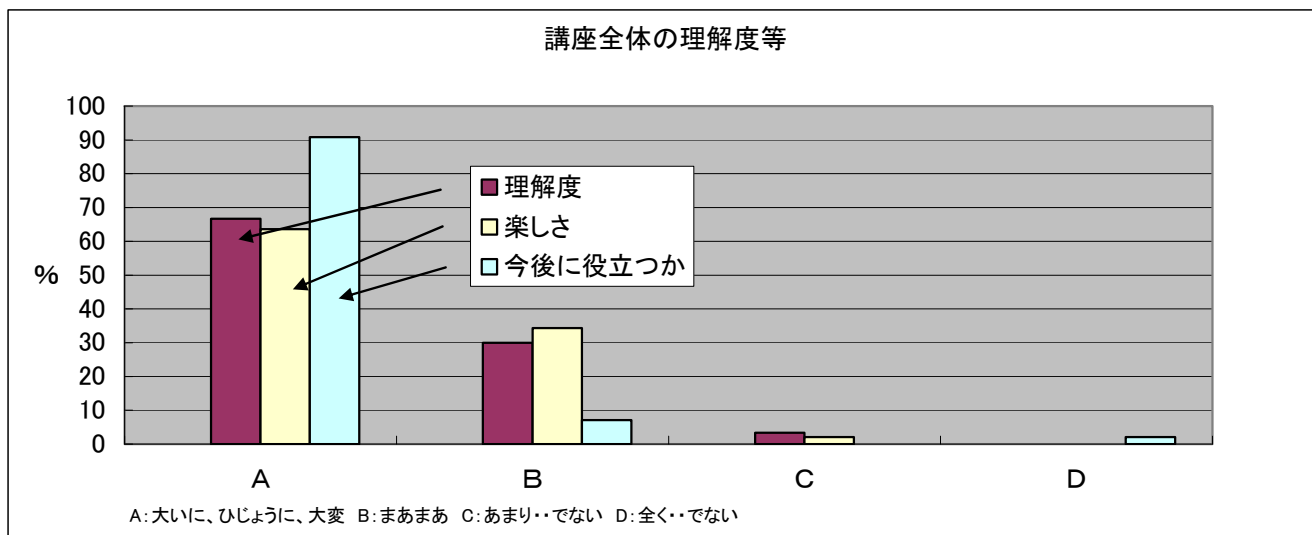
講座ごとの受講者の受講意識について



CAD/CAM 加工実習は理解度と楽しさは同じ数値

各講座の終了時点に受講生に対しチェックシートを配布し、① 講座が理解できたか ② 講座が楽しかったか ③ 講座が今後、役に立つと思われるかというアンケートを行った。各講座に対する結果は上記のとおりである。
また、講座全体に対する結果は下記とおりである。

講座全体を通じて受講者の受講意識について



アンケートの結果から本プログラムについて、理解度、楽しさ、自分の将来にとっての有益性などは一様に高いと思われるが、その理由として、単に講座内容のみでなく、事業の目的を把握して受講生の立場に立って講義にあたった担当講師の思い入れや教授法など、講座の進め方、講師の熱意が大きく影響したものである。

⑤受講後の状況(修了者数・就職率)

講座への平均参加率は91.5%で、修了証書を授与した者（全講座時間の8割以上出席した者）は、5人（全体の35.7%）であった。就職者数は1名、専門的な公共職業訓練への参加が決定した者が1名という結果であった。

本事業の目的は、ニート・フリーターと呼ばれる若年無業者あるいは就労・就学に自信を失った若者に対し、働くことや、学習の意味を見出し、次世代モノづくりの担い手として、また、自らの進路を見極めることを目的とした。その点においては受講生全員が「気づき」を得たように思われる。

中でも、現在の学んでいる内容と自分の将来の職業のマッチングができず、自らの進路に大きな不安を感じていた受講生が今回の講座を通じて、「製造業の素晴らしさを再確認できました。今後はCADの勉強をし、その方面に進みたい」というように、自らの進路をはっきりと見極めた者や講座を受けて自分の特性を知り、さらに専門的な職業訓練（IT系）に参加した者などは本講座の顕著な成果であった。また、受講当初、職場の人間関係に自信がなく、不安を感じていた者が講座が進むにつれ、グループワークやカウンセリングを通じて自己理解、他者理解の重要性を知り、社会に踏み出す力を得たことなどメンタル面での向上が見られた者も多少なくない。

これらは講座の大きな成果であったと言える。

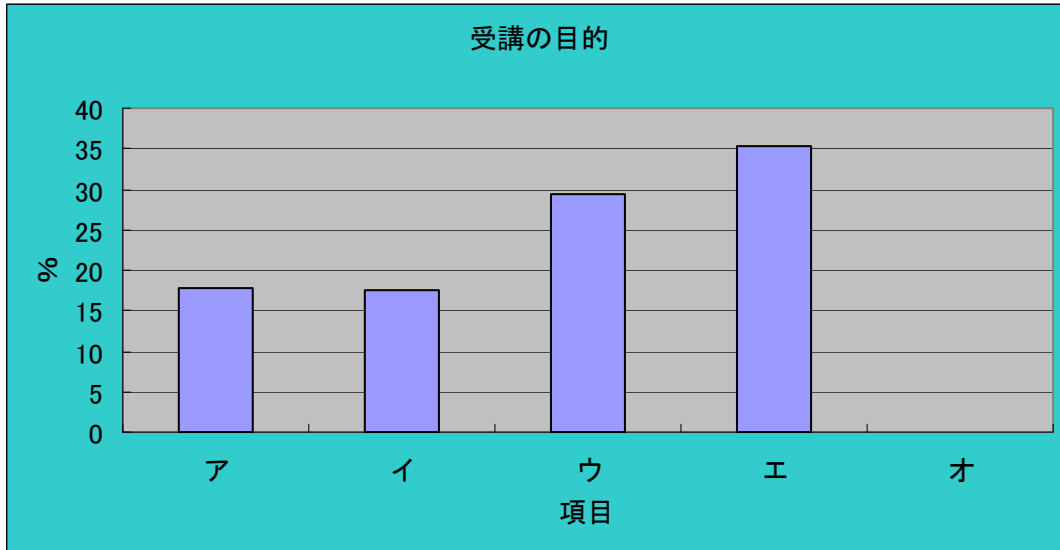
3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

図は受講直前のアンケートによる受講目的を示したものである。

当然、「モノづくりに興味があったから」という者が最も多いが、講座が進むにつれ様々な角度からモノづくりや自己理解、他者理解といったことに新たな発見をしたようである。

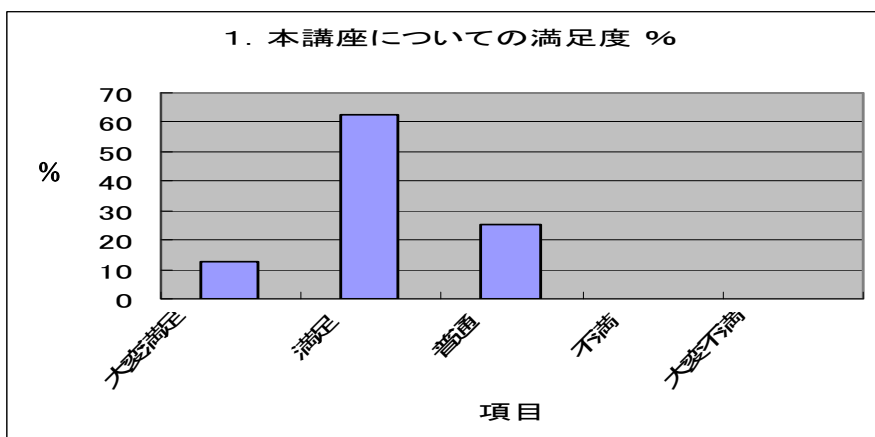
問 あなたが本講座を受ける目的は次のいずれですか（複数回答）



ア：仕事・職業に悩んでいた イ：将来の方向性を定めたかった
ウ：スキルアップを図りたかった エ：モノづくりに興味があった
オ：その他

下図は講座終了後のアンケートの結果を示すものである。

これより受講生の当初の目的は概ね達成されたように判断できる。



②事業の成果及び改善点

① 事業の成果

ももとは就業意欲の高い受講生であったが、前述した当初目標の達成状況からも判るとおり、本事業においては受講者に動因として、自らの進路をしっかりと見極めるさらなる「気づき」があったことは大きな成果と言える。

これは、モノづくりを中心に据えたこと及び常にカウンセラーにより受講生の声を講座に反映し、また、様々な問題など受講生を側面からフォローしたことがあげられる。

講座の体制として特筆すべきことは、短期間である一定の効果を上げる一つの方法として、「訓練的要素」と「教育的要素」の両者の持つ特徴をうまくコラボレーションしたことである。企業の持つ技術力と専門学校を持つ教育力が講座の細部にわたって補完しあい、このことが短期間に受講生の就業・就学の意欲向上に効果的に働いたことである。

それは企業の持つそれぞれの専門分野における必要な知識、技術を教材に反映し、単なる教科書的知識ではなく、教員にはないプロのヒューリスティクスとも言える知識・技術がリアルに受講生に伝ったことが一つあげられる。

一方、専門学校は、教育機関として休憩施設等を含め、完備された教育実習設備があり、また、教授法や学生指導、学生への危機管理能力、就職指導などのノウハウを有しており、これらの協働がシナジー効果となって講座の質を高めることができた。この2点は今後の事業展開において大いに注目すべき点と考える。

② 改善点

本事業において最も改善すべきことは受講生の募集体制であった。それにはまず、募集に当たっては受講生をよく知ることが大切で、その点において理解の不足があった。

社会生活速度の遅いニート・フリーターの場合、自ら主体的にアクションを起こして、事業に申し込みを行うという行動はそれ自体、大きなエネルギーを必要とする。彼らが事業に参加するためには、彼らをサポートする公的機関やNPO団体、ボランティア団体との連携は欠かせないことが明確になった。

本事業においては、こうした公的機関やNPO団体、ボランティア団体との連携について、十分な戦略が立てられなかったことが改善すべき課題として挙げられる。

加えて、事業終了後、3ヶ月、6ヶ月、あるいは1年以上に渡って、就業支援を行っていくためにも、こうした公的機関やNPO団体、ボランティア団体、そして企業との連携は欠かせないものである。

③次年度以降における課題・展開

① 募集について

社会生活速度の遅いニート・フリーターの場合、自ら主体的にアクションを起こして、事業に申し込みを行うという行動変容には、大きな心のエネルギーを必要とする。彼らが事業に参加するためには、彼らをサポートする公的機関やNPO団体、ボランティア団体との連携は欠かせない。

単に、ニート・フリーターをサポートする公的機関やNPO団体、ボランティア団体に募集告知をお願いするだけではなく、そうした団体に実行委員会に加わって頂いて、受講生の送り出し団体として、密な連携を図る必要があると思われる。

② 実施会場について

ニート・フリーターの場合、自宅から外出することでさえ、大きなエネルギーを要とする。彼らに、1時間余り公共交通機関を乗り継いで、遠方の会場まで20日通学させることは、かなり難易度の高いことなのではないかという指摘を受けた。

彼らが、少しでも容易に受講することを実現するためには本事業の実施会場を、愛知県、岐阜県三重県の交通至便な場所、あるいは、ニート・フリーターをサポートする公的機関やNPO団体の事務所近隣に設置するような工夫が必要になると思われる。

③ 事業終了後の就業支援について

事業終了後、就業支援を行い、1人でも多くの受講生を就職あるいは就学に導くためにはニート・フリーターを支援する行政機関、NPO団体、ボランティア団体との連携が重要になってくると思われる。

④成果の普及

今回の事業は、一つにモノづくりを中心とした講座であった。アンケートからも伺えるように、モノづくりの効果を十分に発揮し、活用したことが受講生に受け入れられたと言える。また、カウンセリングの実施は、カウンセラー自身が講座に入って行き、受講生と同じ目線になるなど気軽に話し合えるまで多少の時間は要したが、常に受講生の声を講座に反映し、また、受講生の内部から湧き上がる動因として、「気づき」を与えることができた。また、教育的要素と訓練的要素の両面を講座に反映させることは、「今の自分」から「社会」へのステップとして、接続性が確保される有益な講座体制であることがわかった。

各県、市の関連する部署並びにハローワーク、社会福祉協議会など公的機関やボランティアグループ、若者を支援するNPO団体などに成果物（成果報告書）を配布し、ご意見を頂き更なる研究を進めたい。

現時点で言えることは、県や市の公的機関、法人組織あるいはNPO団体との連携をとり、そこに専門学校の有する教育的資源と地元企業の協力を得た支援体制を確立することが重要になってくる。今後はこのようなスキームづくりを研究し、さらに効果的な事業展開を実施したいと考えている。